

令和6年10月16日

大学院生各位
To All Graduate Students

2024 年度
大学院 基盤医学特論 開講通知
Information on Special Lecture Tokuron 2024

題目：「骨格筋におけるメバロン酸経路の生理的・病態生理的な役割」
Title : “Physiological and pathophysiological roles of the mevalonate pathway in skeletal muscle”

講師：山内祥生 准教授
東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻
Lecturer: Yoshio Yamauchi, Ph.D.

Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo

日時：令和6年11月1日（金曜日）16時00分～17時30分

Time and Date : 16:00 ~ 17:30, Friday, 1st November, 2024

会場：第1講義室（基礎研究棟3階）

Room: Lecture Room 1 (3rd floor of the Basic Research Building)

講義形式：ハイブリッド形式（対面&Teams）

要旨 / Abstract

超高齢化が進み、健康寿命の延伸が叫ばれる中、加齢性筋萎縮（サルコペニア）の予防や治療を目指した骨格筋研究が近年、活発に展開されている。骨格筋恒常性を維持する上で様々な代謝経路が重要な役割を果たしているが、その詳細な分子機構は十分に理解されていない。脂質異常症の治療薬であるスタチンは、メバロン酸経の路律速酵素である HMG-CoA reductase (HMGCR) の阻害剤であり、心血管イベントのリスクを軽減する。一方、その副作用として横紋筋融解症を代表とするスタチン誘導性筋障害が広く知られており、スタチン関連筋症状 (SAMS) はスタチン不耐の主要な原因となっている。また、昨年、肢帯型筋ジストロフィー (LGMD) 患者で HMGCR の変異が発見され、HMGCR が筋ジストロフィーの新規原因遺伝子として同定された。以上のように、メバロン酸経路は骨格筋の恒常性維持において重要な役割を果たしているが、その詳細な分子機構は十分に理解されていない。本講義では、メバロン酸経路制御の基礎や骨格筋におけるメバロン酸経路の重要性などについて、我々の最新の知見を含めて紹介したい。

言語：日本語 Language : Japanese. 共催：iGCORE

関係講座・部門の連絡担当者：分子細胞化学（生化学第二）岡島徹也 内線 2070

Contact: x2070, Department of Biochemistry II

Teams での申込は下記の QR コードからお願いします。Please use the QR code below to apply in advance.

